

〔教育講演〕

こどもの咬合

10月19日(土) 13:45-14:45

鹿児島大学歯学部小児歯科学講座

教授 小椋 正

〔講師略歴〕

昭和39年 3月	日本大学歯学部卒業
昭和43年 3月	日本大学歯学部歯学研究科卒業
昭和43年 4月	日本大学助手（歯学部小児歯科）
昭和46年 4月	日本大学講師（歯科部小児歯科）
昭和48年 8月～ 昭和49年 9月	米国（ミシガン大学）へ出張
昭和57年 4月	鹿児島大学教授（歯学部小児歯科学講座）
	現在に至る。

〔要旨〕

子供の咬合は、乳歯列から混合歯列及び永久歯列へと成長発達している。これらの咬合変化を形態的に報告したものは多い。しかしながら、この変化を機能的にどのように変化発達していくかを報告したものは極めて少ない。

そこで今回私は、正常咬合と不正咬合の子供達の機能的な発達の状態の違いを話し、併せて正常なる成人と比較してその機能的な相違点を説明する。

また、咬合機能障害の代表的疾患である顎関節症の報告は、成人では多いが若年者では少ない。そこで私は、現代の顎関節症の考え方を簡単に解説し、若年者の顎関節症症状が、小学生から中学生・高校生までの一般集団を対象として、症状を持っている人の発現頻度を調査した結果をお話する。その他にも鹿児島大学小児歯科外来に来院した顎関節症患者の症状や、来院までの経路などの臨床統計も、あわせてお話ししてみたいと考えている。